

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail square@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部 30円

2014年 3月 20日

第 370 号

桜の花の下で思う

理事長 稲松 義人

3月28日、私が施設長を兼務するマルカートの人たちと一緒に、年度末のお楽しみ会として浜松城公園にお花見に出かけました。昨年の10月、同じ浜松南エリアの相談支援事業所アグネスのみで相談員を増員する必要に迫られ、マルカートの主任をアグネスみなみに配置転換しました。そのため、マルカートでは、主任が不在という変則な組織になり、日常の支援についても判断を求めたい場面では、直接私に連絡がくることになりました。とはいっても理事長兼務の施設長で、何かと施設の外に用の多い私は、支援員たちからするとあまり当てにすることができない施設長ではないかと思えます。それでも利用者支援への目配りもしなければならぬという思いもあり、この日は、他の会議への予定をキャンセルして、年度末の行事に参加することにしました。

マルカートは定員20名の生活介護事業所ですが、現在在籍するメンバーは22名で、実際の通所者は平均で17〜18名です。「生活介護」という種別の事業所は、障がい像から見えていわゆる「重度」の人たちが中心ですが、マルカートには、知的な障がいだけみると比較的理解力のある人たちも在籍しています。なかに

はむかしは就労していたという人もいます。職場や他の施設で適応できず、行く場所がなくなり、長く家庭などで生活していた人たちです。マルカートで受け入れることで毎日通所する生活を楽しめる人たちもいましたが、毎日元気に通って欲しいというご家族の思いとはよそに、ご本人にはなかなか生活のリズムとして定着できなかったり、通所できても様々な要因から、活動にスムーズに参加できなかったりという人たちもいます。マルカートでは、私が施設長に着任する前から、このような人たちに粘り強く対応してきたのだと思っています。しかし、私たちがはつきりと理解できるように訴えることのできない人たちの気持ちに思い巡らしつつ、試行錯誤して繰り返し支援する毎日には、十分に対応できなかったこともいくつもありました。22名のうちには安定して通ってくることのできない人もいます。ご家族と相談しつつ、何とかご本人の意欲が高められないかと思ひ、あれこれと支援の糸口を探り続けています。通所の実績には残らない支援の努力です。

当然のことですが、22名いると22名なりの課題があります。みんなと一緒に活動できる人ばかりではないのですから、

支援員たちはたびたび人手不足を感じます。「あと一人スタッフがいたら、もう少し丁寧に関わってあげられるのに・・・」口に出さなくてもきつとそう思うことがあるのだと思います。

施設長の立場からすると、どうしても与えられる収入に見合う職員しか配置できません。職員たちが努力する一つひとつの丁寧な支援が、障害者支援の報酬上になかなか反映されないことが残念です。それを行政に伝えるのが施設長の役割なのでしょうが・・・それでも何とかやりくりし、忍耐強く支援したいと思えますが、気持ちにゆとりがなくなると気持ち切れそうになり、報酬上反映されないことは自分たちの役割でないのだからそこまでしなくていいのではないかという思いにかられます。

昨年10月長期欠席から復帰し、ご家族にもご協力いただきながら、少しずつ活動に加わるようになっていたシンヤさんも、今回のお花見には参加することができました。10月よりも足取りも随分しつかりしてきたなと感じます。お弁当のあと、車椅子や職員が支えながら公園内を散策し、にっこりと笑顔を見せて何かを指差し、聞き取れない言葉で「え&èøx!」と話してくれました。シンヤさんが「今日は楽しいね」と言ってくれているのなら嬉しいと思いました。それが、お金に換算できない、支援する私たちの喜びでもあるのです。

三方原スクエア 5年目の春 一歩一歩 歩んでいます



変則勤務、分散勤務

：当初、職員たちはそれまで以上の変則勤務、分散勤務に戸惑ったようですが、その後はどんな様子ですか。

小羊学園児童寮・青年寮を全面改築し、新しい施設三方原スクエアに移って5回目の春を迎えています。居住スペースはグループホームと同じように6人ずつのユニット。日中活動スペースは、居住スペースとは別棟になっており、施設内で通う生活ができる。知的障がい児者の入所施設としては新しいタイプの施設としてグッドデザイン賞や医療福祉建築賞もいただきました。

しかし、他に例がないような実践には他にないような苦労もつきものです。日々の働きを担う職員たちの苦労と、周囲の人たちの協力を支えられつつ、どのような歩みをしてきたのでしょうか。今、三方原スクエアは、どのような課題に向き合っているのでしょうか。

はじめの4年間施設長をしてくださった山崎陽司さんから、昨年4月に施設長を引き継いだ出水巖生施設長に聞いてみました。

努力を続けてきました。

そして5年が経過した現在、三方原スクエアの構造を通して示されている意味が基本になった部署ごとの職員体制として、形としても、また職員の意識としてもようやく定着してきたように感じます。ただその勤務形態に関しては、職員にとつて時間的にも支援的にもまだ多くの負担はありますが、限られた体制の中で少しでも連携や協力が取れる形を作っています。

地域交流

：地域交流スペースの活用までは、なかなか職員が対応できないということから、聖隷クリストファー大学の取り組みとして、コーヒーショップが始まりましたが、その後はどんな様子ですか。

出水：三方原スクエアが完成した1年後より、聖隷クリストファー大学の地域保健福祉実践研究の一環として、教員や学生ボランティアが月1回三方原スクエアの交流スペースを利用して「コーヒーショップ」を継続して開いて下さっています。もともと三方原スクエアも地域の中に違和感なく交わりが持てる事をイメージして建てられました。大学と良い地域の方々为主体となつてこのように機会を持つて下さることはとても大切な事だと捉えています。コーヒーシ

ョップが始まった頃はまだ学生も不安があり、特に会話ができない利用者に対してのコミュニケーションは多くの戸惑いがあったようです。しかしコーヒーが大好きな利用者さんの表情や一緒に付き添う職員の関わりを通して、徐々にその戸惑いが減り、障がい以前に同じ目線で関わる事ができる楽しさを感じながら受け止める事ができるようになっていきました。現在も毎月開かれています。利用者も、また学生もこの日を楽しみにしながら自主的に関わって下さっています。



：そのほかに、地域との交流は、ありませんでしょうか。

出水：毎月2回、日曜日を利用しての絵画教室も旧小羊学園の時から継続し

て行われています。中道芳美先生をお迎えて学生も参加しながら、これまで利用者によって描かれた絵が中心となった展覧会も度々開催されました。以前は入所利用者中心の教室でしたが、現在では在宅で絵の好きな方も一緒に参加しながら、良い意味でこの教室も広がりを見せています。

また恒例で行われている夏祭りに関しては、以前は施設内で行われていましたが、近隣の自治会の御理解とご協力もあり、近年では地域の公園を会場にして三方原スクエア主催の夏祭りと花火大会も開催して地域住民の方々も自然に参加して下さったり、自治会主催の夏祭りもスクエアの出店や参加の案内を頂いて参加したり、地域住民の方々との関係がより深まってきたと感じています。

地域での連携

：4つ目のグループホームができましたね。

出水：これまで三方原地区では利用者の地域生活として3カ所のグループホーム(旧ケアホーム)を展開してきました。スクエアの利用者は障がいの状態の方が多く、地域生活もその状態に合わせて支援を実践してきました。今回4カ所目のグループホーム(名称はす



ずらん)となり、更なる地域移行の推進となりますが、今回の増設は児童部(いわゆる過齢児(児童籍の18歳以上の方)の解消の意味も含まれています。現在過齢児の方は8名いますが、児童福祉法の改正の中で過齢児の在園期間延長の廃止が示され、18歳以上の方は障害者施策で対応するものとされました。しかし成人施設の現状としては退所者が殆どない状況や、在宅で施設入所を希望されていることから現実的な対応にはなりません。そこでグループホームを増設することにより成人部の利用者が地域へ移行し、過齢児の方達が成人籍へ移るといった具体策になった訳です。入所施設からの地域移行を図りながら、児童部としては本来の18歳以下の児童のニーズに応える役割を果たしてゆけることに

なります。

：成人部としての今の課題としてはどんなことがあるのでしょうか。

出水：成人部利用者の平均年齢は46歳ですが、実際には年齢以上に過去からの障がいに伴う身体の負担があったためか、ここ数年で様々な疾患や機能低下が見られる利用者が増えてきています。そのような利用者に対して介護的な支援を安全に行うには、スクエアのユニットの構造やその環境下での職員体制には限界がありました。そこで2年前より重度化したユニットは職員体制の大幅な改善を行い、昨年度は該当ユニットのリビングスペースを広げるための改修も実施しました。

また、入所利用者だけではなく在宅支援のためのショートステイも行っていますが、前述した通り入所を希望されていてもそれが実現できず、家庭では対応が困難な方々をかなりの割合で受け入れている実情もあります。

：今後の三方原スクエアは、どのような役割を果たしていくのでしょうか。

出水：近年の状況として、児童部は入所の背景や子ども自身の障がい特性も変化し、昔の小羊学園とは違った意味での対応の困難さが課題となっています。

また成人部も前述したような課題が深刻化してきている状況です。時代や制度の変化に伴い、以前の小羊学園とは状況が変わってきているとは思いますが、三方原スクエアは山浦俊治先生が始められた小羊学園を引き継ぎつつ、重い障がいや対応困難な方の受け入れやその意味を問い続ける存在であるべきだと思います。それは今後も変わらない部分であるでしょう。

もうひとつは、三方原スクエアという過去の入所施設概念を捨てて限りなく家庭環境に近いユニット構造や地域を意識したその環境を通して、その支援の在り方を模索することです。この構造は理想に近い物であるとは思いますが、まだその中身は決してバランスが取れているとは言えません。小規模であればあるほど分散した職員配置も必要になります。小規模ユニットに対する財政的な保障は児童や高齢分野ではありませんが、障害者分野にはまだありません。そのような運営的な事も含め、利用者の方の障がい像への対応・職員編成・支援の質の維持・環境の機能性・地域実践などを検討してゆく必要があります。三方原スクエアという施設を通して、これらの2点について今後もその在り方を常に考えてゆきたいと思えます。そしてその実践を通して、利用される方々や地域からも信頼される存在になりたいと思っています。

障がいのある子もいない子も
ともに楽しむ春の観劇会

3月25日、南区の放課後支援事業所
ドルチエでは、今年も、東京から来ら
れた青年たちの劇団「アクティンゲ
ラス」による観劇会を開催しました。

今年は、地元の南の星小学校の体育
館をお借りし、南の星小学校の放課後
児童会も参加していただき、昨年も参
加してくださった放課後児童会、ごだま
の皆さん、法人内の放課後支援事業所
の皆さん、ぱるしあも参加してくだ
さり、子どもたち約90名が集まりまし
た。鑑賞したのは、「おとな・こども・
せかい」というオリジナルの演目で、
大人になっても子どもときのようにみ
んな仲良く力を合わせることで世界が
救われるという内容で、観劇後の劇団
員と交流も楽しいひとときでした。



評議員改選、新施設長

3月29日、理事会・評議員会におい
て新年度の事業計画案・当初予算案が
承認されました。また、理事会におい
て任期満了による評議員の改選を行い、
退任の意向があった杉本民評議員に代
わり渡辺禎子理事に評議員を兼務して
もらうことにしました。

新評議員（定員17名）

任期2014年4月1日～2016年3月31日

稲松義人（理事長・マルカート施設長）

山倉慎二（つばさ静岡所長）

池谷慎人（法人本部事務局長）

出水巖生（三方原スクエア施設長）

古橋 誠（支援センターわかぎ施設長）

雨宮 寛（在宅支援センターぱるす施設長）

鈴木良成（つばさ静岡療育部長）

平井 章（社会福祉法人十字の園理事長）

青木善治（聖隷福祉事業団常務理事）

小柳守弘（学校法人聖隷学園専務理事）

田中清司（三方原スクエア家族会会長）

鈴木照義（支援センターわかぎ保護者の会長）

安田清美（つばさ静岡保護者の代表）

江間克哉（マルカート利用者保護者）

小出隆司（浜松手をつなぐ育成会会長）

小林 眞（小羊学園を支える会代表）

渡辺禎子（元小羊学園青年寮施設長）

また新年度より、小羊デイクエアホーム・

ぱるしあ施設長に三方原スクエア統括主

任の紅谷純氏を当てることとしました。

紅谷純：小羊デイクエアホーム・ぱるしあ施設長

相談支援事業所アグネス
移転しました

中区にある相談支援事業所アグネス
は、これまで在宅支援センターぱる
すの中に事務所を置いてきましたが、
ぱるすの利用者が増えたことにより、
もともと小さな事業所だったため、来
談された方との面接でご不便をおかけ
し、相談員の事務業務の面でも効率
が悪くなっていました。

新年度よりぱるすより約300m
南に事務所をお借りし移転すること
になりました。新住所は次のとおりです。
〒43308119

浜松市中区高丘北3丁目31-9

グランドパールB

電話：053-414-1662

FAX：053-414-3113



小羊学園を支える会

2013年度寄付金報告

2月受付分 332,000円（22件）
累 計 5,997,372円（377件）

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局（鈴木）
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

春の陽気が感じられる季節となっ
た。この時期は別れと出会いが交錯し、
心が落ち着かなくなるのはみな同じで
あろう。そんな最中、支援センターわ
かぎ本体工事が完了し、旧管理棟の解
体工事が行われている。永年親しんだ
建物の解体を目の当たりにして、セン
チメンタルに涙ポロリと哀愁に浸ると
思っていたが、浸る暇もなく引越
し作業に日々追われた。ふと我にかえ
ると、センチになれない自分の心が痛い。
きつと皆さんもこんな経験があるので
しようね。

桜も散り、葉が生い茂り始めました。
爽やかな季節の到来です。どうぞ、皆
様お身体ご自愛ください。（F）